第5次産業革命？

関西大学　社会安全研究センター　小澤　守

時の流れのはやいのはこちらが年齢を重ねたせいなのだろう．どこかで読んだ話で，時間は年齢の平方根に比例して進むらしい．つまり１歳の子供を基準として10歳の子供は１歳に比べて約3倍の速度で進み，20歳の諸君は4.5倍程度．今年後期高齢者（？）になった筆者などは8.7倍，つまり1週間が1日にも満たない速度で通り過ぎてゆく．そのせいか巷で喧伝されていることはこちらが理解する頃には新しいものに入れ替わっているようだ．その典型が第4次産業革命や引き続く第5次産業革命である．日本がDXで出遅れていると大騒ぎしていたら，いつの間にか生成系AIが出てきて，それを利用した商売がやたら増え，猫も杓子も（といえば大変失礼な言い方になるが）AIで踊っているように見える．先ごろなどは中高生がネット上での不正アクセスによって逮捕されたとか．ドラえもんの宇宙パトロールではないが，ネットパトロールが必要な状況である．インバウンドの皆さんがいると，昔なら道のひとつも教えてあげようかなどと思ったものだが，いまやスマホで見事に解決している．翻訳などお手のもの．スマホがまさしくほんやくコンニャクになっているのである．そのうちふにゃふにゃのスマホだって現れるかもしれない．

第5次産業革命のコンセプトについて欧州委員会のとりまとめでは，持続可能性Sustainability，人間中心Human-centric，回復力Resilienceなどとなっている．しかし，どうだろう．これらは石器時代から我々人間の祖先が考えていたことではないのだろうか．労働によって食料を確保し，家族で分け合い，健康な明日を志向する．なんの不思議もないが，産業革命という枠組みで考えるようなことなのだろうか．筆者も関与することになるセミナーではSafety, Health, Well-being，別のところではNature positive．多数の標語が蔓延している．

これらは我が国初発ではなく欧米の受け売りであり，結果的にGAFAと呼ばれる現在のネットを支配するコングロマリットの商売のネタになっていないのだろうか．いやあるいは反GAFAの悲痛な叫び声なのかもしれないが．

我が国でもDXの普及の遅れが喧伝され，デジタル後進国の汚名返上とばかりに小学生にタブレットを持たせ，紙と鉛筆をのけ者ものにした教育体系に多額の資金を投入して，何のことはない文字という人類の文化遺産を崩壊に導こうとしている．結果的に出現したのは，自ら思考する前に他人が何を言っているかを検索するだけの意思を持たない国民で，それを増やそうとしているのだろうか．海外の諸国で，学力低下が声高に叫ばれようとしているにも関わらず，悲しいことに我が国ではデジタルの教科書を正規の教科書とするようである．まさしく周回遅れである．一事不再理の原則なのか，決まった予算は何が何でも使わなければならないのかわからないが，今一度立ち戻って我が国の将来を見据え，どんな国を志向し，どうやって国民生活を維持していくのか，考えなければならないのに．そして今の子供がその当事者になるのだ．

いまさら周回遅れを取り戻そうとするのにかなり無理があるのは，火を見るより明らかである．そうこうするうちまた新たな標語が出てくるとさっさとそれに乗り換えることになるのではないか．第5次産業革命が実質的な意味をなさ

ないまま，標語に終わらないか，危惧するところである．

とまあここまで書いて，筆者自身もデジタルの世界に取り込まれて今日もパソコンで文章を書いている．哀しいことに漢字を思い浮かべなくてもパソコンが出してくれる便利な生活を享受しているのである．Wordで書いた文章中に貼り込んだはずの図面がどこかに消え失せたなどと御託を並べている間に，日が暮れ，週が過ぎ，月が過ぎて年を取っていくのだろう．

産業革命の象徴とも言われている
ストックトン・アンド・ダーリントン鉄道の開業（1825年）